

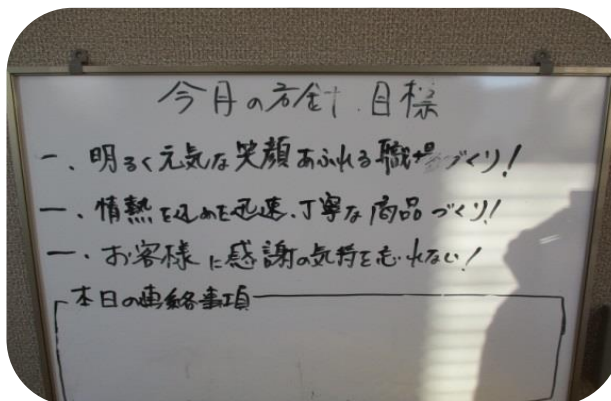
## 縁あって出会ったみんなの強い仲間意識が会社を動かす！

### 株式会社全国チェーン竜鳳

(食品製造販売業／宇都宮市)

【雇用障害者数】 7.5名

農作業を担当するSさん(知的障害)について、総務部長の伊藤さんにお伺いしました。



今月の行動指針を掲げたホワイトボード

#### 【採用・雇用のきっかけ】

特別支援学校の先生が来社し、「当校の生徒の実習を受入れてもらえますか？」と相談を受けました。以前より障害者は雇用していましたが、どんな業務が実習としてふさわしいか検討した結果、学校でも農作業の時間があることを聞いていたので、農作業や農産物の加工業務であれば難しくないのではと判断し、学校側に提案したところ、本人も快諾し実習が始まりました。

当社は学校から近く、本人も自転車で通える距離でした。2年生から実習を開始しましたが、最初は実習後の就職などを前提としたものではありませんでした。

#### 【雇用にあたっての取組】

##### ● アプローチ1 職場体験実習中の様子～社内の障害者雇用に対する理解～

実習期間が1～2月と冬場で、夕方暗くなる前に外作業の業務を終えるよう、早朝からの勤務開始でしたが、寒い中でも元気に作業をこなしていました。

今までも、障害のある人が入社するたび、社内にはアナウンスをしていましたが、見た目では分からない障害の部分も、理解してもらえるような環境づくりはしていました。以前、手話や筆談でしかコミュニケーションの取れない聴覚障害者の入社が決まったときは、学校の先生に手話の勉強会をお願いし、指文字と簡単な手話を学びました。このときは勤務時間内で強制ではありませんでしたが、いざ呼びかけてみると従業員が積極的に参加を希望しました。担当者としても、「縁あって出会ったみんなが仲間」という強い仲間意識を感じた出来事でした。

##### ● アプローチ2 職場体験実習から採用へ

実習を開始した当初は就職を前提としたものではなかったものの、3年生になり2回目の実習からは互いに就職を意識する実習になりました。現場では指導担当の女性従業員が面倒見良く、

## 平成27年度 栃木県障害者雇用支援者育成事業 ～事例1～

周囲とも協調できていたので、卒業後採用としました。また、職場内に他の障害者が勤務していたということも、本人の抵抗感が少なかったのではないかと思います。

採用後も実習時との違いはありませんでしたが、就職後疲れが出て発作（てんかん）が起きたことがありました。その後は薬も服用し、本人も会社も再び発作が起こらないように気をつけています。

### ● アプローチ3 支援機関とのつながり

職場に厳しく指導する従業員がおり、本人にとってはその厳しさが苦痛だったようで、軋轢が生じたことがありました。そのとき、間に入っていただいたのが障害者就業・生活支援センターの支援員でした。従業員は本人のためを思い指導したのですが、言われた本人は頭が真っ白になり正常な対応が出来なくなっていました。支援員との面談の後は落ち着きを取り戻し、「冷静に考えると私のためを思っ



の助言でした」と反省を口にしました。支援員はSさんとの面談後その従業員とも話し合い、お互いの理解を促してくれました。家族は本人の話聞いてくれますが、なかなか会社側には意見できません。会社側も障害者、障害特性の全てはなかなか把握できません。

今回のように、障害者を理解している支援員が間に入ることにより、本人は冷静さを取り戻すことができました。

これからも支援機関とは強いつながりを持ち、企業が出来ないところを補ってもらおうと、現在は月に一度のペースで本人との面談などをお願いしています。

### 【現状と今後の課題】

平成27年度に栃木県より「障害者雇用優良事業所」として知事表彰を受けましたが、地道に障害者の受入れを行ってきたことに対する評価と思っています。最初は企業の社会的責任として、法定雇用率を満たすことを念頭に採用を行っていましたが、雇用率だけを問題視するのでは障害者雇用の核心がつかめません。入社しても辞めてしまえば逆に現場が混乱しますし、採用が少人数だとしても長く勤務してもらえたほうが企業にとっても良いはずです。

今後は障害者だけではなく、女性、高齢者も含め働ける環境づくりが重要だと思っています。既存の仕事を割り振るだけでは雇用を継続するのは難しいので、その人に合った仕事をつくりだす、いわば「仕事のオーダーメイド」への転換を図っています。その一つとして、やきとり加工のための製造ラインを作り、常に仕事がある体制作りに取り掛かっているところです。

また、障害者も健常者と同様、研修会やさまざまな勉強会などに参加し、人間的にも成長してもらいたいと思っています。



【Sさん（20代女性）へのインタビュー】

- Q. 最初はできなかったが今ではできるようになったことはどんな事ですか？
- A. しょうが洗いです。腐っている所やきれいなところを、見分けるコツがつかめるようになりました。
- Q. 通勤はどうですか？
- A. 自転車なので冬は寒くて大変ですが、マフラーや手袋をしているので大丈夫です。
- Q. 仕事は続けられますか？
- A. できる限り続けていきたいと思っています。
- Q. 今の悩みは何ですか？
- A. 発作（てんかん）が起きることです。薬を服用し、起きないようにしています。
- Q. 将来の目標はありますか？
- A. 調理師免許やホームヘルパー、漢字検定、運転免許など色々な資格を取りたいです！特に運転免許はぜひ取りたいと思っています。2年間でお金を貯めて、スマートアシスト付きの軽自動車を買いたいです！



伊藤総務課長（左）と生田目リーダー（右）

【取材を終えて～取材担当者コラム】



手話を積極的に学ぶ姿勢など、『縁あって出会ったみんなが仲間』という強い気持ちを持ち、その強い仲間意識が会社を動かすということが感じ取れます。また、様々な問題解決のために企業と支援機関との信頼関係も、障害者雇用には欠かせない要素の一つであることが理解できました。

今回の取材を通し、私自身も竜鳳の皆さんと仲間としての意識を共有できたような、温かい気持ちになりました。